

11. 沖縄（地域別調査機関：（財）南西地域産業活性化センター）

（ - : 回答が存在しない、 : 主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連	良く なっている	-	-	-
	やや良く なっている	一般小売店〔衣 料品・雑貨〕 （経営者）	販売量の動き	・売上高は前年同月比115%と1月（前年同月比90%）のマイナスを取り戻すことができた。要因としては新商品Tシャツの売上増加と低価格のグッズが修学旅行生に売れたことが考えられる。
		百貨店（担当 者）	販売量の動き	・1月に続き主力衣料が好調を維持している。特に婦人服ヤング、服飾雑貨、紳士服の動向が良く、共に月間にて9～11%の伸びである。紳士服が健闘している原因は、昨年と比較し天候が安定していることと、消費動向が順調に回復していることだと判断している。店舗全体としては住居用品、食品の好調も併せて月末最終6%ほどの増加となる見込みである。
		高級レストラン （営業担当）	販売量の動き	・予想以上に来客数が伸び続けているので、結果的に前年比2～3%増加となる。
		その他飲食〔居 酒屋〕（経営 者）	来客数の動き	・2月は全店舗平均で前年比108%の来客数である。平日の観光客の来客数が増えており、またサービスチケットの戻りが1月より23%多い。しかし、平均単価は例年並みである。
		観光型ホテル （商品企画担 当）	来客数の動き	・宿泊数が前年比で約106%、特に個人旅行が好調で前年比約116%となっている。昨年の10月以降同様な傾向である。
		観光型ホテル （営業担当）	販売量の動き	・大型団体の宿泊受入れにより付帯売上も良い。
		観光型ホテル （総支配人）	来客数の動き	・前年の11月は、室料売上単価は前年同月比5%減であったが、宿泊客数は同8%増となり、室料売上は同程度であった。飲食店・売店等の付帯施設売上は8%減であったが、婚礼・一般宴会・会議等のパンケット売上が10%増、特に婚礼が30%増と好調であったため、総売上は3%増であった。今月は、室料単価は4%減であったが、宿泊客数は3%増で室料売上は前年並みとなり、付帯施設売上・パンケット売上もほぼ前年並みであった。客層としては、企業の慰安旅行や個人旅行が増え、平日が弱く週末集中型ではあるが、稼働率は90%台と好調である。
ゴルフ場（経営 者）	単価の動き	・客層が良くなって、客単価が上昇している。		
変わらない	スーパー（企画 担当）	販売量の動き	・売上が前年を上回り、好調に推移している。特に節分・バレンタインギフト等の季節商品が好調で、前年を大きく上回った。	
	コンビニ（経営 者）	競争相手の様子	・昨年11月に電化製品も取り扱う総合スーパーが商圈内にオープンした影響がある。	
	家電量販店（従 業員）	客の様子	・今月の売上そのものは落ち込んでいるが、客の志向としては、価格が高くても良いものを選んでいく感がある。	
	その他専門店 〔楽器〕（経営 者）	販売量の動き	・地元の客足は減っている。観光客は多いが売上には今一つばらつきがある。外国人が楽器を買っていくケースが増えている。	
	観光名所（職 員）	来客数の動き	・施設利用者数は、3か月前の11月は前年同月比で106.6%、今月は2月26日現在で107.9%。1月28日から2月26日までの約1か月間イベントを実施したことを勘案するとほぼ同じと考えている。県外からの来客数も好調である。来園者は一般団体、修学旅行、学生等が中心である。	
やや悪く なっている	コンビニ（経営 者）	販売量の動き	・売上は前年よりやや減少しており、伸びる傾向が全く見当たらない。値引きクーポン券の効果も無く、どうしたら売上向上に結びつくかわからない。	
	コンビニ（エリ ア担当）	客の様子	・競合コンビニの出店が相次ぐが、新店に向かう足取りは以前より重いようである。逆に低価格路線の他業種であるスーパーの新規店は繁盛しており、ドリンク1品でもスーパーで購入するケースが増えている。消費者の少しでも出費を抑えようとする傾向が顕著である。	

		通信会社（店長）	販売量の動き	・通常であれば、2月あたりから販売数が伸び始めるが、今月は伸びがみられない。
	悪くなっている	住宅販売会社（経営者）	競争相手の様子	・沖縄県の建築業者150社が談合の疑いで公正取引委員会の調査を受けており、その結果、追徴金として請負金額の3%の課税がやがてなされる。建築業者は各社精算や整理の準備に追われていて、大変厳しい状況にある。
企業 動向 関連	良くなっている	-	-	-
	やや良くなっている	-	-	-
	変わらない	通信業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・法人系、コンシューマ系共に毎月新規受注はあるが、需要予測の範囲内である。
		不動産業（支店長）	受注量や販売量の動き	・問い合わせ、成約の件数が横ばい状態である。
	やや悪くなっている			
	悪くなっている	-	-	-
雇用 関連	良くなっている	-	-	-
	やや良くなっている	学校〔専門学校〕（就職担当）	求人数の動き	・県外企業、特に製造やシステム開発系の求人数が増加傾向にあり、今後も顕著に表れてくるものと思われる。
		学校〔大学〕（就職担当）	採用者数の動き	・入域観光客数が増加しており、ホテルの新規開店に伴い新卒の求人が増加している。
	変わらない	人材派遣会社（経営者）	求人数の動き	・先月までは新規依頼や追加依頼の増加傾向があったが、今月になり依頼数の伸びが鈍化している。2、3か月前の活況が感じられない。
		求人情報誌製作会社（営業担当）	求職者数の動き	・週毎に若干変動はあるものの、求職者の動きに鈍化傾向が見受けられる。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・10月と比較すると、新規求人数は10.5%増の4,411人である。一般求人は13.6%増で3,500人（構成比79.3%）である。パート求人は0.1%減の9,11人（構成比20.7%）である。1月の新規求人は情報通信、運輸、金融・保険、飲食・宿泊、医療・福祉、教育・学習支援、サービスで増加し、建設、卸売・小売、不動産、複合サービスでは減少している。有効求人倍率は0.06ポイント上昇し0.56倍である。月間有効求人数は2.5%減少の9,676人である。
	やや悪くなっている	-	-	-
悪くなっている	-	-	-	